

コンテナ苗による造林コストの縮減に向けた取り組み

網走南部森林管理署

【背景と現状】

- 林業の採算性を向上させ森林を健全に育成していくためには、初期段階における造林コストの縮減が重要であり、近年これらへの対策としてコンテナ苗が注目されている。しかし、その利用に当たっては、メリットを十分に発揮させる作業方法や普及が十分とは言い難い現状にある。



【これまでの取り組み内容と得られた成果】

- 地域の造林事業の現状等を把握
- コンテナ苗の活用に向けて、問題点の把握や分析を実施
- 植付用器具の改良を実施し、試植したところ既存の植付用器具と比較して優位性(器具重量・価格の低減、植付時間の短縮)を発揮
- 平成26年度北の国・森林づくり技術交流発表会への参加、発表など成果を公表 ⇒ **他の地域への情報発信**



改良器具武田式2号

【平成27年度の取組み結果】

○植栽工程の見直し

コンテナ苗のメリット発現のため、植付用改良器具(武田式2号)を使用した植栽手法の検討と試植の実施(美幌町国有林)

- ⇒ 武田式2号を使用した植栽作業及び分業化(穴堀、植付、苗木運搬)による植栽手法が、他の従来器具と比較し最大約1.5倍植栽時間を短縮

植付器具の比較

器具名	植付本数(本)		重量(g)	価格(円)
	1時間あたり	1日あたり		
改良器具(武田式2号)	122	745	2,200	10,000
ディフル	101	600	3,600	30,000
スベード	94	568	3,000	15,000
鍬(従来の器具)	79	480	1,800	5,000
竹の子鍬	67	400	—	—
プランティングチューブ	—	—	3,400	60,000

○植付用改良機具の普及

道有林のコンテナ苗植栽事業地(津別町道有林)において、改良器具による植栽を実施するとともに、国有林と道有林森林整備担当者が道有林の事業地で意見交換等を実施

- ⇒ 植付作業に当たって作業者が各植付用器具を習練しておくことの必要性など、作業時の具体的な注意事項等について効果的に情報共有



道有林試験地における意見交換

○コンテナ苗の低価格化へ向けて

コンテナ苗の活用等が進まない要因(価格・生産量等)や低価格化が進まない要因(長期的需要、規格等)の解消に向けての対策を検討するため、先進的な種苗生産者との意見交換等を実施

- ⇒ 需要と規格の公表による生産ラインの改善等、更なる低価格化への取り組みを推進



先進的な種苗生産者との意見交換

○コンテナ苗生産ラインの見直し

コンテナ苗の生産性の向上に資する生産ラインの機械化等について、地元種苗生産事業体への情報提供等を実施

- ⇒ 生産工程等の具体的な検証(日報の分析や生産工程の工夫や機械化など)に向けた取り組みを事業体へ提案



民有林造林会議における協力依頼

【今後に向けて】

- 平成27年度の取組み結果を踏まえ、民有林現場におけるコンテナ苗植栽への支援やコンテナ苗の生産性向上に資する具体的な取組みを実施